

**大震災と
統一地方選**
2011年4月

立候補予定者
公開討論会

それぞれの主張9氏が熱く

県議選
豊橋市區



県議選豊橋市選挙区の立候補予定者9人がそろった「公開討論会」=豊橋市公会堂で

4月1日告示の県議選まで1週間を切った。豊橋市選挙区(定数5、欠員1)では26日、同市公会堂で「立候補予定者公開討論会」(豊橋青年会議所主催)が開かれた。現職4・新人4・元職1の計9人の立候補予定者がそろって出席。大村秀章新知事が掲げたマニフェストの各項目に対する○×△の評価をはじめ、地方財政や県の重要課題、震災への支援や防災について、それぞれの見解を主張した。(杉浦文夫、藤田彰彦)

渡会 克明	浅井 由崇	鈴木 孝昌	山本 嘉和	山本 正樹	小久保三夫	伊達 勲	丹羽 洋章	かしわぎま代	立候補予定者(敬称略)	主な主張
医師不足対策、浜松と連携	東三河県庁しっかりと議論	知事の中京都のイメージがまだ沸かない。6月議会に上申されると、支え合いが大切。今回の震災も、支援物資はきめ細かに、医療やインフラの技術者の派遣もある。	中京都構想は、私が訴えてきた中都圏戦略本部の設置と方向性は一致するが、職員の意識改革が課題。医師不足対策は浜松との連携を強化したい。大震災で増える当地への移住は、市営住宅や企業の社宅活用もして対応を	中京都創設、元気もたらす	地震防災対策、東三河重点	10%の減税は現実的に無理	豊橋が経済的なエンジンに	討論会は、東日本大震災の犠牲者に黙とうが続く中、開催して良いが、いかがいたが、政長が「被災地の苦しみが続く中、開催して良い」と述べた。	〇×設問	(1期) ▽自民党現職の鈴木孝昌氏(3期) ▽みんなの党公認の山本正樹氏(同) ▽元職伊達勲氏(新人) ▽民主党公認の丹羽洋章氏(3期) ▽公明党現職の渡会克明氏(3期) ▽民主党公認の児玉圭哉氏(3期) ▽立候補予定者(敬称略)
知事のマニフェストを推進	主義で実現を目指す。災害は地域で支える、地域を越えて支え	東三河県庁は、予算、人事権などしっかり議論したい。産業発展にエネルギーと水の確保は最大課題。設楽ダム建設を推進。安心安全な水の確保をしたい。	中京都構想は、私が訴えてきた中都圏戦略本部の設置と方向性は一致するが、職員の意識改革が課題。医師不足対策は浜松との連携を強化したい。大震災で増える当地への移住は、市営住宅や企業の社宅活用もして対応を	中京都構想は東京との関係がはつきりしていない。東三河県庁は地域の課題をヒーディング法でまとめ体制に、地震や台風で大きな力となりつつある。元気ある愛知県をつくるためにも、豊橋市がリーダーシップを取り、東三河マニフェストを推進していく。	中京都知事がめざす中京都の創設は、人口減少社会を迎えた大村知事も言うように、東三河が中心となり、今まで以上に三遠南信地域を活性化させるべき。大震災という困難に立ち向かい、豊橋も経済的なエンジンにならねば。併せて地域防災計画も抜本的に見直していく。	10%減税に反対。それよりも必要なのは、防災力強化と福岡など巨大開発を行ったからであり、設楽ダム建設はやめるべき。脱原発も進めていく。	県民税10%減は、反対というより現実的に無理。4兆7000億円の借金を返せない。中京都も理解できない。災害対策は昨年3月策定の「あいち地震対策アクションプラン」を再検証し緊急性の高いものは前倒しを。	豊橋が経済的なエンジンに	主義で実現を目指す。災害は地域で支える、地域を越えて支え	〇×設問
〇	△	△	×	○	△	×	△	①	(1期) ▽自民党現職の鈴木孝昌氏(3期) ▽みんなの党公認の山本正樹氏(同) ▽元職伊達勲氏(新人) ▽民主党公認の丹羽洋章氏(3期) ▽公明党現職の渡会克明氏(3期) ▽民主党公認の児玉圭哉氏(3期) ▽立候補予定者(敬称略)	の節減
〇	○	○	△	○	○	×	○	②	の節減	の節減
〇	△	△	△	○	○	×	△	③	の節減	の節減
〇	○	○	○	○	○	△	○	④	の節減	の節減
〇	○	○	△	○	△	△	△	⑤	の節減	の節減

主な現職のかしわぎまの施政の優先順位の上位3つに「ライフルインの整備や防災」の項目を入れたが、減税や設楽ダム建設については、異なる意見を主張した。

この後、各質問に9人が順次、回答。大震災後だけに全員が、災直後に自ら紹介。

新入が自ら紹介。この後、各質問に9人が順次、回答。大震災後だけに全員が、災直後に自ら紹介。